

第5回 大宮GCS推進戦略会議 議事資料

2024年12月25日(水)



【本日の内容】

議題1 **これまでの議論の振り返り**
✓ 第1～4回 大宮GCS推進戦略会議

議題2 **大宮の文化と大宮GCS化構想について**

議題1 これまでの議論の振り返り

- ✓ 第1～4回大宮GCS推進戦略会議



第1回（令和3年9月22日）

- ・ 歩行者中心の賑わいのある空間づくりについて



第2回（令和4年3月2日）

- ・ 東日本対流拠点としての更なるポテンシャル向上について



第3回（令和4年9月29日）

- ・ ランドマークの創造について
- ・ 災害に強いまちづくりについて



第4回（令和5年3月10日）

- ・ DXの推進について
- ・ カーボンニュートラルについて

令和3年9月22日開催

第1回 歩行者中心の賑わいのある空間づくりについて

ウォーカブルな環境づくり

- ・人流を増えることで、まち全体の付加価値が向上し、賃料が上がることは大事。高い賃料を払っても成り立つまちづくりが経済性に結びつく。
- ・ここにしかないものをどのように生み出していくかが大事。
- ・ウォーカブルは心地よい空間をつくることが重要。氷川参道とのつながり方が大事。
- ・大宮の路地感を皆で共有することが大事。
- ・各地区が連携するデザイン、マネジメントがとても大事。
- ・東口を中心に新たな魅力、ブランドを作るのは必須。
- ・大宮は首都圏や日本のコネクティングの拠点を目指し、自然と一体・新しいモビリティが共存したウォーカブルなプロジェクトになる必要がある。
- ・ナイトウォーカブルシティという魅力を育てる。
- ・時の移ろいで変わらない磁力(魅力)をどうつくるのかがポイント。
- ・まちにストーリーがあると歩いてみたくなる。氷川神社の聖性は重要。
- ・道路と駐車場とは別に、歩行者だけを中心とした仕組みが大事。
- ・ウォーカブルには駐車場のネットワーク化を考える必要がある。
- ・インフラだけでなく、生きたまちにするにはソフトを深化・進化させることも大事。
- ・新しいモビリティが共存したウォーカブルの実現も検討すべき。

意見を受けた市の考え

- ・大宮の資源である氷川神社・路地・ナイトシティ・自然など、大宮ならではのもの(魅力、ブランド、ストーリー)を活かす。
- ・歩行者空間のデザイン、マネジメントは、行政と開発街区が連携する。
- ・車と人の動線計画の検討、新しいモビリティ等を踏まえて、歩く楽しさ、魅力を高める動線計画とソフト施策によるウォーカブルの仕組みをつくる。

令和4年3月2日開催

第2回 東日本対流拠点として更なるポテンシャル向上について

ポテンシャル向上

- ・大宮で降りるための魅力やコンテンツ等をどうつくるかが大事。
- ・研究開発機関、ITベンダー等を引き込み、スタートアップの集積拠点を作る。
- ・東日本との連携のため鉄道や公共交通、マイクロモビリティのおさめかたが大事。
- ・日本のために大宮が活躍できることとして、新幹線による物流がある。
- ・民の新しい開発が既成市街地で起こりGCSになっていく、公民連携は必須。
- ・人・モノ・情報が経路・集積するためには、経済合理性とユニーク性が必要。
- ・大宮駅周辺の道路混雑の改善も付加価値向上につながる。
- ・東日本に眠る暗黙知をGCSでマッチングし、価値の創造やイノベーションへつなげる。
- ・課題への対応を新規の開発地で積極的に導入することが地域の価値向上につながる。
- ・未来の大宮らしさを作り出すコンセプトが必要。
- ・GCS全体のマスタービジョンを各街区と共有することが重要。
- ・大宮はスーパー田園都市を目指してほしい。
- ・氷川参道や見沼田圃等と防災を絡めてグリーンインフラ化し、暗黙知を刺激するウォークアブルな空間が最も重要。

意見を受けた市の考え

- ・対流拠点として大宮ならではの価値、経済合理性とユニーク性が必要である。
- ・大宮をつくるコンセプトの設定と共有が重要である。
- ・東日本に果たす役割を意識したまちづくりにより、価値の創造やイノベーションを起こす。

令和4年9月29日開催

第3回 ランドマークの創造について 災害に強いまちづくりについて

ランドマーク

- ・大宮は時代とともに変化、発展し続けるイメージを打ち出す。
- ・大宮の歴史をグリーンとの共生としてまとめるといい。
- ・鉄道で来た人が街へ出ていくときに、街の風景、人の活動が見えるようにすべき。
- ・まちから見たときに大宮らしい駅だと思えることも大事。
- ・今後の開発で、大宮らしさや雑然を残す、一体感を生み出すことが重要。
- ・ストリートプランツプロジェクトで、盆栽を活かす。
- ・憩うだけでなく交流にもつながるグリーンの考え方がいい。
- ・連続性のあるランドマークが必要。
- ・ランドマークを作るには、駅前の6街区の統合されたコンセプトが必要。
- ・中央通りをシンボルとし、周辺のビルと一体化したランドマークを形成する。
- ・駅前は、大宮を可視化する唯一の空間。駅から降りたときの景色が極めて重要。
- ・自然や水や緑を可視化し、裏側の設えではスマートな装備を施すようなまちのイメージをつくる。

意見を受けた市の考え

- ・駅から降りたときに感じる街の風景・人の活動が見えることが非常に重要である。
- ・まちの象徴となる「駅」の見られ方を意識することも大切である。
- ・自然(水・緑)や時代の変化を受け入れ続ける都市とするイメージを大宮から発信する。
- ・駅や一つの建物だけではなく、駅前全体でランドマークを創り上げる必要がある。

令和4年9月29日開催

第3回 ランドマークの創造について 災害に強いまちづくりについて

災害に強いまちづくり

- ・さいたま新都心の行政機能と有事の際に連携することが大事
- ・バックアップ・ハッドクオーター機能を普段からビジネスで活用することを考えたとき、核都市間連絡道路は大きな存在
- ・民間のバックアップ拠点をしっかり作っていくことが課題
- ・災害時の物流のネットワーク、拠点との連携が必要
- ・再開発ビルは、一步高いバックアップができるようにする
- ・災害に強いまちづくりはオフィスニーズを高める
- ・企業から選ばれるには、情報をいかに早く復旧できるか
- ・首都圏の防災のハッドクオーターには、高速道路の延伸が重要
- ・民間のバックアップ機能をテコに民間企業を誘致し、首都圏全体の安全性を高める
- ・耐震性能、耐水性能、耐火性能を持った街を作れば、ポテンシャルアップに貢献する
- ・氷川神社の参道の自動車通行禁止にし、災害時の避難通路に活用する

意見を受けた市の考え

- ・災害を意識した防災性の高い施設・コミュニティをつくる。
- ・役割を踏まえたバックアップ拠点を構築する。
- ・拠点間を結ぶネットワーク(情報・物流・支援など)を構築する。
- ・「民間との協力」や「拠点間での連携」により災害に強いまちを創ることで、大宮が首都のバックアップ・ハッドクオーター機能を担い、首都圏全体の安全性を高める。

令和5年3月10日開催

第4回 DXの推進について カーボンニュートラルについて

DX

- ・大宮のまちづくりと、さいたま新都心の省庁機能をうまく組み合わせて、プライオリティを付けながらDXのまちづくりを進める。
- ・信頼・楽しさ・面白さでコミュニティを構築するために、デジタルをどう使うかが重要。
- ・大宮は新幹線での対面のリアルとデジタル両方の価値が提供できるので、東日本の様々な仕事の核になれるのではないかな。
- ・市の様々なデータをオープン化し、そこに市民が参画するというプロセスを持ち込み、まちに関わる機会を増やすことが大事。
- ・DXで得られる情報を賑わい・経済に替える仕組みづくりが重要。
- ・持続可能なDXシステムが必要で、DXによるにぎわい創出では商業運営のメリットが大きいので、商業が負担するのが合理的。
- ・大宮の強みを活かす、災害時のDXが重要。
- ・自動運転に対応できる道路の設計に取り組んではどうか。

意見を受けた市の考え

- ・リアルな大宮の強み(交通の利便性、災害に強い)を活かして、デジタルと両方の価値を提供していく。
- ・信頼・楽しさ・面白さといったデジタルの特性を使って、地域のコミュニケーションに活かす。
- ・まちのデータを活用して、大宮の賑わいや経済を活性化するため、データ構築や管理の持続可能な仕組みづくりが重要。

令和5年3月10日開催

第4回 DXの推進について カーボンニュートラルについて

カーボンニュートラル

- カーボンニュートラルは、現状では省エネにとどまっているので、カーボンニュートラルを実現するプロセスが必要
- カーボンニュートラルにおける見沼田圃の貢献はすごく大事
- ブラウン(環境汚染)とグリーンをどうやって統合していくかというのが、これからの都市づくりの大きなテーマ。大宮はブラウンとグリーンが隣接し、ブラウンを統合したグリーン化は、さいたましかできない。
- 面的な開発は脱炭素のチャンス。市がプライオリティを高くしないと実現できない。
- カーボンニュートラルはエネルギーセンターエネルギーインフラ等の整備が大切。
- 大宮は生物多様性への貢献度が高く、環境先進都市を目指すならそこを評価すべき。

意見を受けた市の考え

- SDGs未来都市として、大宮のグリーン、生物多様性を活かしたまちづくりを検討する。
- 見沼田圃や、ブラウンを統合したグリーン化など、大宮ならではのグリーンをカーボンニュートラルに活用する必要がある。
- 開発と合わせたエネルギーインフラの導入を検討していく。

意見を受けた市の考え 赤字：経済分野 青字：社会基盤 緑字：環境分野

①
歩行者中心の賑わいのある空間づくり

- ・大宮の資源である氷川神社・路地・ナイトシティ・自然など、大宮ならではのもの(魅力、ブランド、ストーリー)を活かす。
- ・歩行者空間のデザイン、マネジメントは、行政と開発街区が連携する。
- ・車と人の動線計画の検討、新しいモビリティ等を踏まえて、歩く楽しさ、魅力を高める動線計画とソフト施策によるウォーカブルの仕組みをつくる。

②
東日本対流拠点として更なるポテンシャル向上

- ・対流拠点として大宮ならではの価値、経済合理性とユニーク性が必要である。
- ・大宮をつくるコンセプトの設定と共有が重要である。
- ・東日本に果たす役割を意識したまちづくりにより、価値の創造やイノベーションを起こす。

③ランドマークの創造

- ・駅から降りたときに感じる街の風景・人の活動が見えることが非常に重要である。
- ・まちの象徴となる「駅」の見られ方を意識することも大切である。
- ・自然(水・緑)や時代の変化を受け入れ続ける都市とするイメージを大宮から発信する。
- ・駅や一つの建物だけではなく、駅前全体でランドマークを創り上げることが必要である。

災害に強いまちづくり

- ・災害を意識した防災性の高い施設・コミュニティをつくる。
- ・役割を踏まえたバックアップ拠点を構築する。
- ・拠点間を結ぶネットワーク(情報・物流・支援など)を構築する。
- ・「民間との協力」や「拠点間での連携」により災害に強いまちを創ることで、大宮が首都のバックアップ・ヘッドクォーター機能を担い、首都圏全体の安全性を高める。

④
DXの推進

- ・リアルな大宮の強み(交通の利便性、災害に強い)を活かして、デジタルと両方の価値を提供していく。
- ・信頼・楽しさ・面白さといったデジタルの特性を使って、地域のコミュニケーションに活かす。
- ・まちのデータを活用して、大宮の賑わいや経済を活性化するため、データ構築や管理の持続可能な仕組みづくりが重要である。

カーボンニュートラル

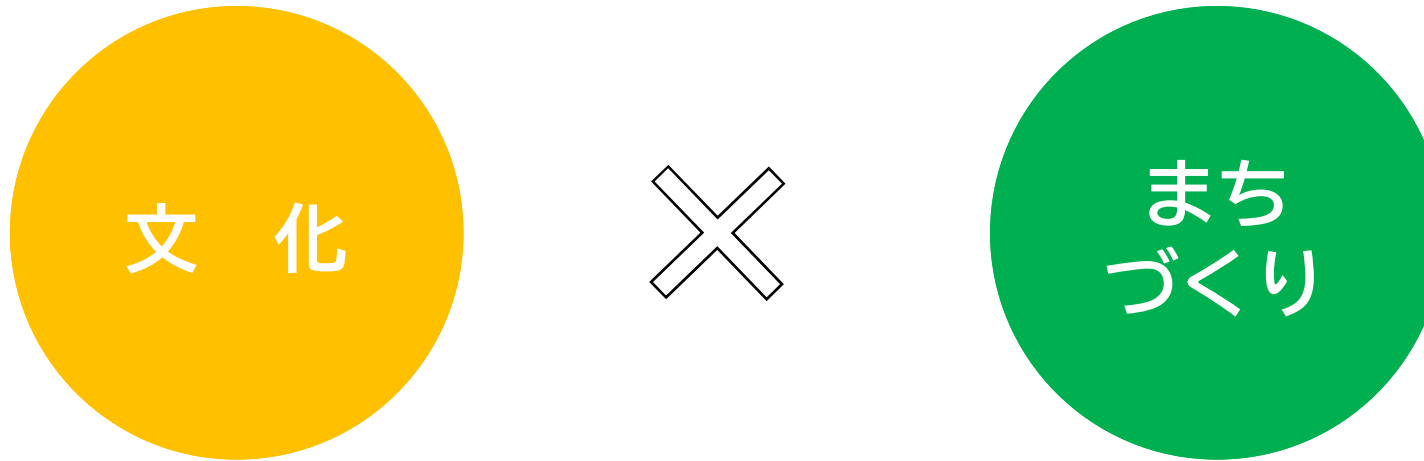
- ・SDGs未来都市として、大宮のグリーン、生物多様性を活かしたまちづくりを検討する。
- ・見沼田圃や、ブラウンを統合したグリーン化など、大宮ならではのグリーンをカーボンニュートラルに活用する必要がある。
- ・開発と合わせたエネルギーインフラの導入を検討していく。



議題2

大宮の文化と大宮GCS化構想について





- ・知名度、認識度が向上
- ・それぞれの文化に親しむ人が増加

⇒文化の活性化につながる

- ・まちの個性となり、発信力も向上する
- ・まちに訪れる人が増える

⇒賑わいづくりにつながる

大宮の文化 ～まちの成り立ちから生まれた文化～

氷川神社
(門前町)

大宮の語源でもある資源
市民共通の原風景

鉄道

日本で初めての分岐駅
鉄道博物館

商都

県央最大の商業地
多くの人であふれる銀座通り
北関東を代表する歓楽街「南銀」

見沼
田んぼ

都心近くにある田園風景
生きものを育む豊かな自然



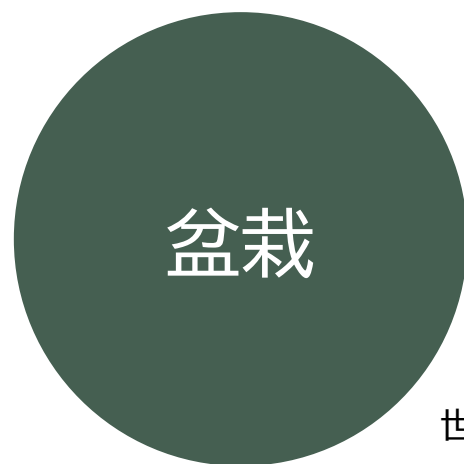








大宮の文化 ～皆が考える文化～



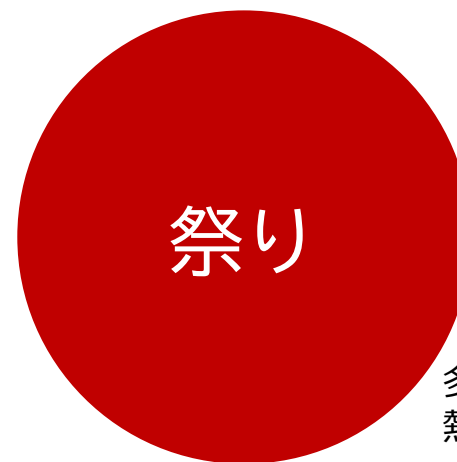
世界的な盆栽の聖地



日本初の漫画に関する美術館



大宮アルディージャ
ホームゲームの日には
多くのファンが大宮に集結



多くの市民が集まり、
熱狂する
大宮の夏の風物詩





写真提供 大宮アルディージャ





▲日本近代漫画の先駆者「北沢楽天」

▼日本初のカラー漫画雑誌
「東京パック」





大宮の文化 ～大宮の大衆的文化～



かつてはたくさんの映画館が大宮南銀座地区などに立地

専門学校

さまざまな専門学校が大宮にあり
学びを得ることができる

美容室

美容室も大宮にはたくさん集結し
個性的なお店が並ぶ

古着屋

たくさんの古着屋が大宮に出店

お笑い
劇場

大宮から全国に羽ばたく
若手芸人の登竜門

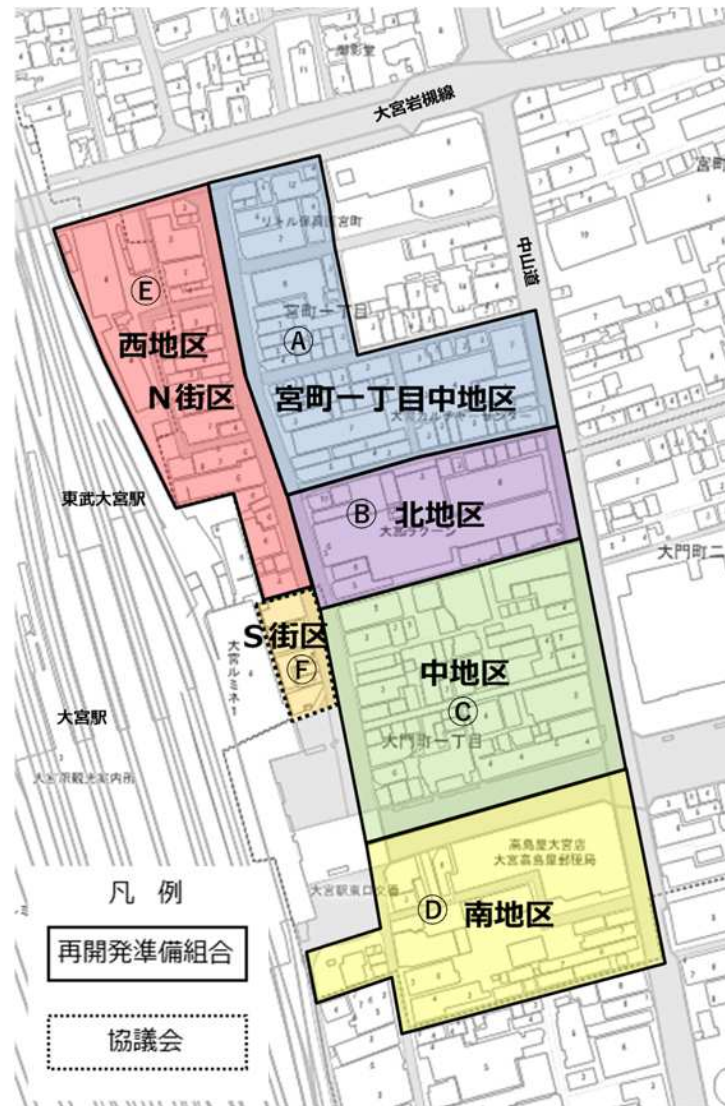
商店街
路地・通り

昼のみならず夜も
魅力的な商店街・通りを形成









①大宮駅東口宮町一丁目中地区市街地再開発準備組合

- ・ 設立時期 : 令和 4 年 3 月
- ・ 区域面積 : 1.3 ha※
- ・ 協力企業 : 戸田建設(株) (運営支援者)

②大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合

- ・ 設立時期 : 平成 23 年 3 月
- ・ 区域面積 : 0.7 ha※
- ・ 協力企業 : 未定

③大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合

- ・ 設立時期 : 令和元年 1 1 月
- ・ 区域面積 : 1.5 ha※
- ・ 協力企業 : 大成建設(株) (事業協力者)
野村不動産(株) (事業パートナー)

④大宮駅東口南地区市街地再開発準備組合

- ・ 設立時期 : 令和 2 年 9 月
- ・ 区域面積 : 1.3 ha※
- ・ 協力企業 : (株)フジタ (事業協力者)

⑤大宮駅東口西地区N街区市街地再開発準備組合

- ・ 設立時期 : 令和 5 年 6 月
- ・ 区域面積 : 1.1 ha※
- ・ 協力企業 : (株)大林組 (事業協力者)

⑥大宮駅東口西地区S街区まちづくり協議会

- ・ 設立時期 : 令和 2 年 1 0 月
- ・ 区域面積 : 0.1 ha※

※図上計測値 (事業の進捗によって変更の可能性あり)

センシユアスシティ[官能都市]について

島原万丈氏
(LIFULL HOME' S総研所長)

議論

センシュアスシティ[官能都市]を受けて

議論

大宮の文化と大宮GCS化構想との 共存について